

地域で災害に備えて

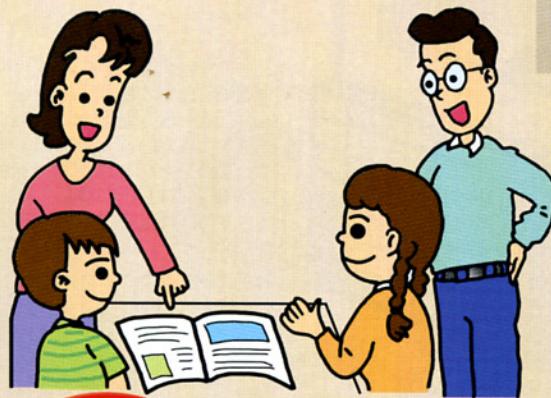
自主防災組織

大規模な災害が発生したとき、市や公共の防災機関では道路の寸断、建物の崩壊、断水、停電、同時多発の火災など悪条件で充分な対処ができないかもしれません。いざというとき、最小限に被害を抑えるためには地域住民の防災活動が必要になります。「自分たちの家族やまちは、自分たちで守る」という意識をもち、地域防災活動に取り組んでいきましょう。

おもな活動

情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導、避難所運営
(給食・給水、清掃等)、二次災害防止のための巡回など

自分たちで守る!



月に1度は、家族で防災について話し合いましょう。

- ① 家族一人ひとりの役割分担
日常の防災の役割と災害が起きた時の役割の両方を決めておきましょう。
- ② 危険個所のチェック
家の内外の危険個所を確認しましょう。
- ③ 家の中の安全な空間を確保
家具の安全な配置換えや、家具の転倒や落下を防ぐ方法を考えましょう。
- ④ 非常持出品の確認を
必要な品が揃っているか。期限切れの物はないかを確認しましょう。
- ⑤ 災害時の連絡方法や避難場所の確認
家族が離ればなれになった時の連絡方法や避難場所を確認しましょう。

非常持出品の準備

- 避難場所での生活に最低限必要な準備をしておきましょう。
- 負傷したときに応急手当ができるように準備しておきましょう。
- 非常持出袋などは、いつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。



貴重品
(印鑑、通帳、現金)



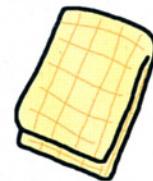
ラジオ(予備電池も)



懐中電灯
(予備電池も)



救急箱



毛布



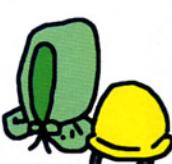
手ぶくろ



その他
(マッチ、ローソク、ナイフ、
コップ、缶切り、ポリ袋など)



食用品、飲料水



防災ずきん

ヘルメット



衣類



ほ乳びん